

# 都市の苦惱と集中か分散か (二)

藤田 宗光

## 四、社會問題

一七七〇年から約百年に亘つて起つた所の産業革命は、資本主義の確立を促し人口と資本との都市集中を促し、大規模による工業商業の勃興の素因を促した。産業の發達と機械の進歩は、企業の獨占をなさしめ労働者の數を減し近代の人々を機械化し、生活線の壓迫は人間の自尊心を抑壓し、品性を墮落せしめ、奴隸的労働の下に藝術的氣分など毛頭もなく、朝早くより夜遅くまで孜々として労働するが一生の生活であつて、投資に對する収入の分配が多く、富が一部少數の資本家階級に獨占されるに至つた。富の力は

各人の精神を墮落せしめ、流行物は自然華美に流れ人心輕薄となり中、商業者は大資本による工場、工業、百貨店に壓倒され、労働者、被使用人の失業を促し、大都市に失業者を發生せしめ貧富の差甚しく、勞資問題を惹起し従つて文明の恩恵に浴せざる貧産階級と云ふ一種特別な社會を提出せしめた。

カールマルクスが、機械の現出を蛇蝎の如く嫌厭し労働者の敵なりと絶叫したるは充分眞理ありと云へる。經濟界の逼迫は想像以上に於て企業家、事業家の發生は供給過剩に陥り、其の上金の產出は限定され、自然物價の下落を來し

延いて事業界の閉鎖を招來し、失業者の流れは思想の悪化を醸成し、又は都市の慾望に對する刺激は犯罪を多くならしめた。

嘗て都市は文化の巷であり、一國文化の中心なりしも今や一變して恐怖の巷と化しつゝある。

都市の享樂は、田園に比し藝術的で民衆的である。土地の利用價値の増進は、地價の昂騰を促し地主の利益を齎し従つて市街地に於ける住宅家賃の騰貴甚しい。普通人の嫌惡する不衛生地帯には細民窟が生れ、病と惡の策源地となり兒童の教育上惡影響多く、一種の社會問題として寒心すべきことである。

都市が又犯罪の巢窟であることは否み難きことで、都市が農村に比し總ゆる犯罪を爲すに適してゐると、發覺を防ぐに至極便利なるに起因するものである。巧妙に配置されたる警察網に對し犯罪者は、敏捷に貧民窟、或は盛り場へ身を隠し、護身術となし自ら群居地域へ根城を構へ、之等一帶の社會人心を悪化せしめつゝあるものである。

市民の品性陶冶、或は道德涵養のため、精神講話を施すと雖も之を遊戯化し不良性の分子多く、馬耳東風にて一度生活難に逢着せば本來の野獸的本能を發揮し、社會の風教を害するに至る。

## 五、衛生問題

### 一 空中の汚染と肺結核

都市に於ける商工業の發達及交通機關の激増は、都市の繁榮を齎したる主要原因であるが、之に反し日を逐ふて新鮮なる空氣が汚染されることは、誠に悲しむべき現象である。而して之が日常生活に及ぼす影響甚大にして、市民の保健衛生上より考へても、忽緒にすべきではない。即ち人體に不良を及ぼす原因を列擧すれば

1 都市は小なる面積に多數なる人口を抱擁する建築物の高層、街路の狹隘、空地の僅少及保健上必要なる採光通風不十分

2 煤煙、塵芥、惡瓦斯、微生物により汚濁されたる空氣が市民の健康を害する

工場、浴場、鐵道、汽船、煖房、厨房等より排出する煤煙或は特殊工場より排出する悪瓦斯、塵芥、汚泥より發生する悪瓦斯、微生物、道路により塵埃の空氣汚染に起因して、市民の健康に及ぼす影響を考ふるに、疾病として其の犠牲は肺結核、肺炎及氣管支炎の諸病が最も多い。即ち都市へ肺結核の多き原因は、黒煙濛々たる煤煙や、空中に飛躍する塵埃が、直接吸入により肉體的異變を生ずると共に、空中汚染は、都市の生活環境を變化せしめ、精神的に陰鬱ならしむるにある。

かゝる煤煙の防止上通風換氣を不良ならしめ、生命の糧たる清風を籍りて、室内を洗滌する大自然の恩恵に逆行し随つて心身保健上悪影響を及ぼすものである。結核の豫防は、住宅寄宿舎の改善工場による煙突の空中淨化、豫防として工場内の爐の改造、完全燃焼口の設置、燃料の改善、無煙燃料の使用、動力の電化、給炭方法の改良、塵埃汚泥の完全なる處置、汚水の淨化、街路の鋪裝及撒水によつて塵埃を減少せしむ。又炭酸瓦斯を吸收する爲、都市の緑化の爲、

公園の新設、擴張、街路樹の勵行住宅内に於ける綠樹の普及である。更に出來るだけ空地の擴張、高層建築物の外庭の獎勵である。

## 二 糞尿の處理と傳染病

糞尿は、都市の人口に比例して產出量を増加する。糞尿は都市の汚物中最も不潔なるものであつて、傳染病の流行に對して最も危険なる原因となるものである。然るに日本人は之に對し無關心である。日本都市の消化器病多きことは左に示す如くである。

### 記

都市名	病名
静岡市	赤痢 二〇・二二
東京市	〃 一六・七八
横須賀市	〃 一三・八一
京都市	〃 一二・五七
吳市	〃 一一・五二
神戸市	〃 一一・〇四
大阪市	〃 一〇・九六

長崎市	腸チブス	七二・二七
横須賀市	"	二〇・六二
廣島市	"	一八・九四
吳市	"	一八・五二
仙臺市	"	一七・三六
札幌市	"	一六・九二
熊本市	"	一二・七五
金澤市	"	一一・六八
京都市	"	一〇・八九
小樽市	"	一〇・二八

(昭和六年度人口一萬に付き)

我國に於ては、消化器傳染病の豫防として上水道の完備を主として全國都市中八割迄は完成してゐるが、現在水道の水を使用しながら腸チブスを發生する幾多の例がある。この缺陷を防止するには、都市の衛生施設として上下水道の完備を期するにあつて、就中下水道中に於ける糞尿處理の解決にある。然るに都市の糞尿の處理が適切に行はれても、農村に於て人糞を尿尻肥料にする關係上農村の食品が常に都市人士の口糊に上るを以て、都市と農村の尿尻處理

が完全に行はれるにあらざれば、到底完全なる効果は得られない。

先進都市に於ては、寄生蟲は都市にあるべからざるものになつてゐるが、我が國では田園に比し都市には蛔蟲が少いが、矢張都會人に寄生して流行病を蔓延せしめつゝあることは心細い状態である。

我國の尿尻處理に就いて考ふるに、人糞と共に蛔蟲卵が我等の生食する野菜に附着して、腹中に出入するものなれば、それと同時にチブス菌が同時に口糊に這入るのである。都會人の腹中に蛔蟲の存在する限り、チブス、赤痢の撲滅は期待されない。

我國の都市衛生施設は、上水、下水、牛乳に對しては幾分考慮されつゝありとは雖も、都市に於ける消化器傳染病の撲滅は至難である。即ち將來消化器傳染病豫防は尿尻處理を中心とする衛生施設が大切である。

### 三 噪音と健康

科學文化の進歩文明利益の應用及各種工學の勃興に伴

ひ、都市の噪音問題が重大化した。

近代都市は都市が大なるほど生活の環境は、噪音の巷と化し吾人を精神的並に肉體的に能率を低下せしめ、漸次不安の状態に於かれてゐる。即ち室外の噪音は、夜間睡眠を妨害し、従つて身心の疲労を醫する能はず悪化せしむる。

又一時的に人の注意力を引き起し思考力と記憶力を減退せしむ。種々の雑音及經濟界の變動は、都市人を精神過敏ならしめ、仕事の能率を低下せしめ、ある場合には精神病の發生を促すものである。

東京市に於ける噪音の大きさの如し(單位新テジベル)

(一) 交通機關による路面上の噪音

ガード下又は橋梁上を運轉する電車の音	七〇—九五
市内電車の音	七〇—七五
オートバイの爆音	四〇—七〇
乗合自動車、貨物自動車	四〇—六〇
乗用自動車	三〇—五五

(二) 電車内に於ける噪音

地下鐵道	四〇—七五
------	-------

省線電車

市内電車	五〇—七〇
	四〇—六五

(三) 一般戶外噪音の例

リベット工事の音	六〇—七〇
繁華な街路及廣場の喚音	五五—六五
役所街公園の大通	三五—五〇
學校街、住宅地、公園内	一五—三五
岸に於けるモーター船の音	四〇—五〇

(四) 室内噪音

某發電所内	八四
某變電所内	七四
某動力室	五七
雜沓時に於ける百貨店	七〇

斯くの如く都市雑音の根源は、多種多様であり其の音響の強弱大小は千差萬別であるから、都市の噪音を簡単に解決することは困難である。

ある程度の噪音は、人々の精神状態に愉快を與へたり、又不愉快を感じたりするけれど可級的に都市民精神的消耗の甚大なることは云ふ迄もない。都市生活者の要求する平

靜體養等を妨害し、精神過敏不眠症焦燥の原因をつくるのである。即ち雜音防止の問題は、都市生活の安寧と市民の保健上忽にすべからざる問題であつて、噪音防止の方法の確立と一方市民に對する噪音道德の涵養防止實行運動の施設をなすべきである。

## 都市集中論

### 一、大都市論

都市の發展は、近代文明の發達に伴ひ極めて必然的に生ずべき現象にして誠に喜ぶべき事である。而して都市繁榮の如何は、實に一國の盛衰を意味し、一國の興隆は都市發達の如何によるものなる事は何人も否定し得ざる處である。蓋し一國の大都市は、其の國の最高支配者であるからである。されば各人の立場から或は國家的見地から考へても、都市の發達並に都市人口集中は大いに歓迎すべき事にして、それと同時に都市格の向上から都市的施設の完備に努力し、一日も閑却してはならないのである。然るに過去

數十年以前の爲政家は、この點甚だ遺憾の點多かりし爲め、都市住民の保健衛生其他凡ゆる方面に幾多の缺陷を見るに至つた。

世人往々にして都市發達に對して兎角の批評をなし、都會生活を忌むが如き言をなし、就中都市生活と田園生活とは何れが幸福なりや等云々するも、その何れが幸福なりやは人により異なるものにして、その長短も亦一長一短ありと云ふべきである。過去十數年以前の都市と現代都市とは大いに事情を異にし、最早左程都市生活を不幸なりとは云へないのである。都市生活者各人と大局の見地からの都市觀は、都市的施設に關しても自ら相反する點も多々あるが、要は大局より見て國家的最善の處置をしなければならぬ。

我國の都市發達は、維新後の事にして世界に於ける新興國として、歐米の文化輸入により一躍發展せるものである。米國も新興國と云ひ得るも我國よりは遙かに先進國にして、現代にては世界の文化發祥地とも云ひ得るのであ

る。而して大富源を藏する産業國である。故に大都市の發達は極めて自然的に目醒しい發展を見るに至つた。

英國は非常に早くより商工業都市の發達を見た國である。特に工業方面には、非凡な力を所有する國民であつたから、諸種の發明により相次いで各種の工業が盛んに行はれ、加ふるに無盡藏に近い石炭と豊富なる鐵の産地を有し、大都市として、且つ四圍海を以て圍まれ海運國として發展すべき潛勢力を既に百五十年前に築いてゐたのである。

然るに我國はどうか、僅かに數十年前に漸く都市たる形成を築きたるも、僅かに二三に過ぎなかつた。國內の産業は振はず、農を以て國本とする、自給自足の國家にして商工業は勿論、四圍海を以て圍まれ乍ら海運業も意の如くならず當時の世界に於ては實に微々たる弱國であつた。然るに維新後西洋文物の輸入と共に國民も深き眠より醒め、僅々數十年にして世界にその比を見ざる大發展をなし、産業に商業に工業に將た海運業に外國貿易に幾多の向上發展を見た。就中工業と海運業は、世界の霸王たりし英

國を將に凌駕せんとする傾向にあり、世界至る處に我國の輸出品を見るに至つた。以上商工業其他の發達は我國都市に一大發展を促したのである。

我國の都市としては、今や數百を算するに至り市制施行都市としても一二五の多きを數へ、この内十萬以上の人口を有する都市三四更に五十萬以上の大都市さへ六を算するに至つたのである。特に東京、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱の如きは最も著しき發達をした都市にして、東京、大阪の如きは日本の都市と云ふよりはむしろ國際都市と云ふべきである。その他二十萬以下の都市にして僅かに數年乃至十年にして發達せる都市多々あるのであるが、之等は總て海港又は商業交通の中心地として發達し、極近年に至りては工業の影響により一躍都市として發達したのである。特に我國の大都市たる前述東京、大阪、京都、名古屋の如きは、諸種の産業大いに勃興すると共に、商業工業共に大いに發達し、交通の中心地たるは元より海運の便亦大いに開けたる爲、自然人口の集中を來したるは勿論である。而

して東京の如きは、我國政治の中心地たると同時に、文化の發祥地であり都市として極めて完全なるものにして、世界に誇るべき都市である。

大都市の發達は、(ここにては百萬以)中都市以下の如く、

商業工業或は海港交通の中心地又は一地方の單なる中心地たるが如き、特種な一二の條件に依りて建設さるべきものでなく、必ずや一國の首府が、さもなくば前述中都市に於けるが如く諸種の都市的要素(即ち(イ)一地方の行政中心

地、(ロ)商業及交通の中心地、(ハ)諸種の製造工業極めて有望なること、(ニ)貿易港その他海運の便よきこと)其他凡ゆる條件の總てを具備するに非ざれば、到底大都市たる事は望めないのである。従つて百萬以下の都市は、現代日本の狀勢に於ては今後各地に現出し得るものと信ぜらるゝも、それ以上の大都市を求むる爲めには直に各種の都市的要素を益々強固にしなければならぬ。

都市の發達は、各種の事業が殷盛を極め、且つ人口の集中を來す所以である。即ち諸種の事業は、農村漁村並に小

都市より幾多の人口を擄取するのである。而して斯くの如く人口の集中を來すに於ては、必ずや都市としては住民の社會生活上幾多の美點を有すると共に、又一面幾多の缺點を有することは世人の等しく認むる處である。都市の缺點は、産業組織制度の充實に吸々の餘り、その改善方面について精力を集中する機會が少かりしに外ならない。換言すれば、都市の統制に對する知識の不足は、漸次その缺點を暴露するに至つたのである。

この缺陷を指摘し改善すべく現はれたのが我國の都市計畫法である。大都市、中都市、小都市等も其の建設に至る迄には特有な歴史と性能を有するは云ふまでもなく、東京大阪、京都、仙臺、長崎の各都市にしても決して偶然に今日の都市建設を見たものではない。必ずや之等の都市が今日の繁榮を得る迄には、一國の上から見ても一縣の上から見ても、且は都市的要素から云つても最も適當なる地理的背景と經濟的領域を有したるに起因すべく、斷言し敢へて憚らぬのである。



イギリスに於ける田園都市が、都市計畫運動にある魅力を與へたかも知れないが、從來の都市發達を輕視して、都市に増大しつゝある人口を以て新都市を建設せんとしたるに拘らず、都市は其の周邊に向ひ益々増加する一方である。田園都市論者の如く、都市に集中せんとする人口を以て、機械的に人口の増加を抑壓して、無限に分散することは本により魚を求むるが如き類である。都市の膨脹は之を是認して、その内部の施設を改善するのが、都市集中の根本的意義であつて、都市の大部分は皆之に則つて都市計畫を樹立してゐるものである。

都市が經濟、政治、社會、文化の中樞があつて一國或ひは一縣の最高支配者であることは、誠に明瞭な事實にして前述したるが、人口の多寡は第一に都市の經濟の尺度となり又は商工業の繁榮を招來するものであつて、現在に於ける經濟制度の持續する限り、一市民が都市人口の膨脹を希望するは何等怪しむに足らない。大都市は大都市、中都市は中都市でなければ享受し能はざる機能と利益があること

を忘れてはならぬ。ともあれ新興日本は農業國より出て僅か數十年にして、世界の列國に伍し、商工業國として將又海運國として立ち最早現代に於ては、嘗つて世界の霸王たりし英國、米國等と競ひ正に東洋の覇者より世界の霸王たらんとする。蓋しそは實に現代日本の都市發達に起因すべく、都市發達たるや亦國民の著しき努力により、國內産業其他凡ゆる方面に活動せし賜にして、今や世界の大都市として送り出しつゝある現代日本の都市は、内容に於て著々その實を擧げ都市的施設益々完備し、大都市たるや將に十指を算せんとす、豈亦類の稀なる國民の力ならずや。

## 二、小都市論

近時世界各國の何れの都市を問はず目醒しく發展し、向上し擴大されつゝある。殊に各國の首府並に大商工都市の發展に對しては、實に驚くべき潛勢力を有し、各國は夙に之が對策につき意を注ぎ居る状態なるも、之が都市計畫に對しては、將に斯界の大家もその策に苦慮するの狀態にして、都市發達の狀況たるや實に停止する處を知らざる現狀

である。加ふるに、中小都市の勃興は年々其の數を倍加し、之亦實に素晴らしい躍進を續けてゐる。然れ共大都市の發展に比べて小都市の勃興は極めて歓迎すべきことである。大都市の發達、國際都市の現出は、一國の立場から極めて喜ぶべき事にして、何れの國を問はず、大都市並に國際都市進出につき力を注ぎつゝある。大都市の都市的完成に就いては、種々なる弊害と苦心が伴ひ、且幾多の都市的缺點を有する爲、非常なる努力と巨額の費用とを要するを以て、完全なる都市形成は望めない。小都市は、大都市が幾多の美點を有するに比し極めて僅かの美點しか有せざるも、亦大都市に於けるが如き幾多の缺點なき爲め、小都市の進出は、一國興隆の見地から又國民の社會生活上から考へても、今後一層の進出を期待するものである。

我國の都市發達は、歐米先進國に比して非常に遅れたるも、其の發達程度の著しきは、遙かに各先進國を凌駕したのである。即ち明治維新迄の我國には都市と名付べきものは京都、江戸、大阪、を除いては殆どなく總て舊城下町に

して、名古屋、金澤、廣島、長崎、和歌山、堺、等が當時に於て一歩先じて都市的要素を具備してゐるに過ぎなかつた。昭和の今日に於ける我國都市は實に一二五に及び、内九一は十萬以下の小都市にして如何に目醒しく發展したか一目瞭然である。都市の發達は誠に喜ばしい現象にして、一國の興隆たるは、元より一縣の繁榮であり一般市民の福利である事は勿論である。總ての點から考へて小都市の繁榮は都市的施設、衛生、保安、交通其の他凡ゆる方面に於て都市完成に容易であるが爲に、小都市發達を歓迎すべきであつて、昨今の如き各國大都市の無制限に數多く發達することは、あまり歓迎すべきことでない。

イギリスは世界的に國際經濟界に早く雄飛したるが爲、植民地貿易殷盛を極め富の集中甚しく、イギリスが全資本の七割までが全人口の一割の極少數の人によつて獨占されてゐる状態であり、勞農ソヴェト聯邦が帝政ロシア時代には國富の大部分が貴族の壟斷する所であつた。然し歐洲戰亂が下層階級の獨立とレーニンケンレスキー等の奮起に

より帝政は撲滅された。即ち富が漸次一部階級に獨占せらるゝことは、必ずしも國民全體の利益ではない。それと同様に、一國から考察しても百萬以上の大都市が數多く現出することは喜ぶべき現象ではないが、國際都市として我國に於ける東京、大阪、の存在次いで京都、神戸、名古屋、横濱の存在は一國の興隆を考へても重要な立場にある。

之等都市の人口は、全人口に對し二割二分に當り、全都市人口に對し四〇%に該當し、如何に豪勢なるか推して知るべきである。

六大都市以外の都市が、名古屋、神戸の如き都市を現出することは恐くはないが、若しありとすれば國民として必ずしも幸福ではあるまい。一國の上から考へ都市と田園と物資に於て有無相通じ、均衡してこそ安定ある生活を營み得るのである。都市の工業が勃興すると共に、農村に於ける生産方法も改善され、兩者共存共榮を得てこそ、國家の隆盛を齎らすものである。

六大都市以外の都市に於ても廣島、福岡市の如く今後益

と發展せんとする都市なきにしもあらざれども、中小都市の全部が大都市を目掛けてゐるものではない。小都市必ずしも大都市の卵ではない。我國が世界三大強國の一として世界へ雄飛しつゝ然も圓滿に政治を運用し得るのは、二千有餘年に渉る歴史と、萬世一系の皇室を戴くは勿論なるも、生活程度の等しき中産階級が割合に多く、眞面目に嚴正に活躍しつゝあるのがその大なる原因ではあるまいか。都市の全部が大都市を現出することは好ましからず、小都市には小都市でなければ甘受し能はざる健康なる生活と十分能率を發揮し得る數多の長所が存在してゐる。

小都市が大都市に優れる特點を列擧すれば、

- 一、地價低廉
- 一、勞銀低廉
- 一、健康に適する
- 一、人口稀薄
- 一、交通量輻輳せず

小都市は以上の通り大都市に優れる點あるを以て、大都市

に於ける工場の擴張が不經濟である爲、工場の小都市へ分散せる傾向甚しい。さればこの機會を捉へ、小都市の營養價値を増加し、大都市の工業を地方に分散せしむることは都市計畫の進歩である。小都市は、大都市の長所を取り入れると共に、田園の長所をとり理想なる都市を建設せねばならぬ。自動車交通の進歩、ラヂオの普及により小都市に於ても大都市民と比較し、短時間にその文化に浴することが出来る。

小都市へ相應する工場を設置し、その活氣を注入し、年々疲弊を辿りつゝある農村救済の見地からして、小市民と農民との有無相通ぜしめ、共存共榮の生活を營ましむるには、經濟の合理化、即ち資本の地方分散、延いては大都市の人口増加を抑制し、小都市の更生でなければならぬ。近代の各國都市計畫の潮流は、大都市主義より小都市主義に變遷しつゝあるもの、様である。即ち過大都市の數多き事はあまりに歓迎すべきものでない。さればと云つて都市の膨脹を阻止する事は到底出来ない事である。こゝに於て大

都市の周邊に小都市の建設を爲し以て、大都市の緩和を計らんとするものである。

歐米諸國に於ては特に前述都市を建設する目的の下に設計を爲し之が完成を見たるもの數多あるが、我國に於ては斯の如き都市建設を見ない。我が國の小都市が單獨で存在する場合は、益々内容を改善し又衛生都市ともなり得る小都市が各地に散在する――、地方に於ては過大都市を中心に小都市の有機的機能を益々發揮する必要がある。大都市の發達敢へて歓迎すべきことにあらざるも、亦悲しむべき現象にもあらず。要は事に應じ、時世の進歩に應じその處置誤らずんば敢て憂ふるにたらず。されど小都市の繁榮は益々之を助成し以て小都市の持つ美點を助長し、國民保健は元より凡ゆる事業に、都市的施設に力を注ぎ、過大都市の弊を一掃する意味に於ても地方小都市の完成は誠に重大である。